



つなぐちゃんベクトル

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会社内誌 臨時増刊 344号 2011.4.20 発行 社会政策研究所

社保改革、震災復興と一体的に決定- 与謝野担当相

キャリアブレイン 2011年4月19日

政府・与党の「社会保障改革に関する集中検討会議」の月内再開に向けた準備作業会合が4月19日に開かれ、与謝野馨社会保障・税一体改革担当相は冒頭のあいさつで、社会保障と税の一体改革の政府・与党案を取りまとめる際には、「(東日本大震災からの)復興のための財源問題を一体的に決めていかなければならない」との認識を示した。

与謝野担当相はまた、「(一体改革は)震災があってもなくても日本が直面していた問題」と述べ、政府・与党案を6月に取りまとめる方針を改めて示した。

内閣官房の担当者によると、非公開で行われた意見交換では集中検討会議の委員からも、「震災復興と社会保障(改革)の両方をにらんだ取りまとめにさせていただく」などの声が上がったという。

準備作業会合ではこのほか、元経済財政担当相の大田弘子氏(政策研究大学院大学教授)らからヒアリングを行った。

大田氏は、社会保障の将来像が示されなければ増税幅を判断できないと指摘。医療・介護については、▽医療機関間の診療データの共有▽混合診療の解禁▽要介護度が高い人への介護保険給付の重点化—などを提言した。

次回の準備作業会合は23日に開かれ、これまでのヒアリング結果などを整理する。

柔らかく支え合う 子どもから高齢者まで集える場 田野

朝日新聞 2011年4月15日

高齢者の前で歌を歌う子どもたち=田野町のなかよし交流館



年齢や障害の有無を問わず、誰でも集える場が田野町にある。幼児や高齢者が思い思いに時間を過ごし、午後には学校帰りの子どもたちの歓声が響く。発達障害や引きこもりで悩んできた人も「環境サポーター」として、掃除や高齢者の話し相手で活躍。互いに支えあう柔らかい

関係が生み出されている。

「なかよし交流館」と名付けられた施設は木造平屋建てで、大広間と和室2間、トレーニング機器を備えた多目的ルーム、風呂場などがある。介護予防施設であり、子どもたちの一時預かり施設でもある。

富山市に開かれた「このゆびと一まれ」を参考に、保健師の広末ゆかさん(50)らが町に開設を提案。2003年から運営が始まった。「誰でも集える」「役割がある」「できることを認め合う」「できることから始めよう」がモットーだ。

高齢者15人ほどと、幼児や児童数人が朝から夕方まで有料で利用し、看護師と作業療

法士、ヘルパーらが常駐。学校帰りの児童らは自由に出入りする。洗濯物干しや料理を手伝ったり、子どもを見守ったり、子どもが高齢者の車いすを押したりして支え合う。

3月下旬のある日の午前中、大広間ではお年寄りが談笑し、隣の畳部屋では2歳の子どもがおもちゃで遊んでいた。決まった時間割りはなく、窓際で昼寝している高齢者もいる。お昼ご飯を作るのはご近所のボランティアだ。

午後1時過ぎ、保育園が終わった園児がやって来て、おもちゃで遊んで室内を駆け回る。体操をしている高齢者のところに行き、園で習った歌をさっそく合唱し、拍手を受けた。

ほぼ毎日通っている女性（84）は「知らん人ばかりでも、一緒におったら話がおうてきますやろ。うちにおったら話し相手ないし」。水曜日に来ている女性（80）も「みんなまで話したりゆっくりしたり。それがいい」と話した。

医師が在宅生活は無理と判断した認知症の高齢者が交流館に通い、3年間在宅で過ごせたこともある。神経の難病を患った夫妻も亡くなる直前まで通った。「自分らしく過ごせるゆったりとした時間がいいのかもしれない」と広末さん。

障害がある人らも「環境サポーター」で活躍。敷地の草抜きや館内清掃、高齢者の話し相手などを自分のペースで務め、給料は1日500円だ。高校卒業後、就職がかなわず自宅にこもっていた男性（27）も環境サポーターだ。「次の一步にと通い始めた。年齢がまちまちで難しい面があるけど、いろいろな人と接することで働く土台になると思う」と話す。引きこもりだった20代の女性も少しずつ人と接することができるようになり、パートタイムで仕事を見つけて巣立った。

広末さんは「地域福祉には住民参加が必要。いつまでも行政主体でなく、民間と行政が協働してどう進めていくかを模索したい」と話した。（前田智）



障害者の作品 売り場常設

朝日新聞 2011年4月19日

「M&M s l o w」で商品を選ぶ親子連れ＝福岡市西区

■西区の商業施設に全国初の出店

福岡市西区にオープンした大型商業施設「木の葉モール橋本」に、福祉施設のアート作品やクラフトを扱うショップ「M&M s l o w」がオープンした。障害のある人たちの作品の常設売り場が大型商業施設にできるのは全国初という。

市内6施設を含めた全国12福祉施設で作られたTシャツや藍染めのストール、靴下など、色彩豊かな70種類以上の商品が並ぶ。福岡が拠点のアパレル会社「M&Mリサイクルクローゼット」が運営し、出品する施設と商品は、障害者の創作活動を支援する工房まる（同市南区）が中心となって選んだ。

工房まるを運営するNPO法人の樋口龍二代表理事（37）は「障害者の作品を買ってもらう場ではなく、普通の商品と同じように売れ筋を見込んで作り、売っていく場。評価にさらされることで質も高まり、可能性も広がると思う」と期待している。（山下知子）

たまには太陽の子・手をつなぐ、たまにはつなぐちゃんベクトル、たまにブログたまにはチェック



大阪市天王寺区生玉前町 5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行